

3 茶臼岳 初夏山行

「ここが茶臼という山なのか! そこの山とは違う存在感!」

1 年

日時 2022 年 6 月 18 日(土)19 日(日)

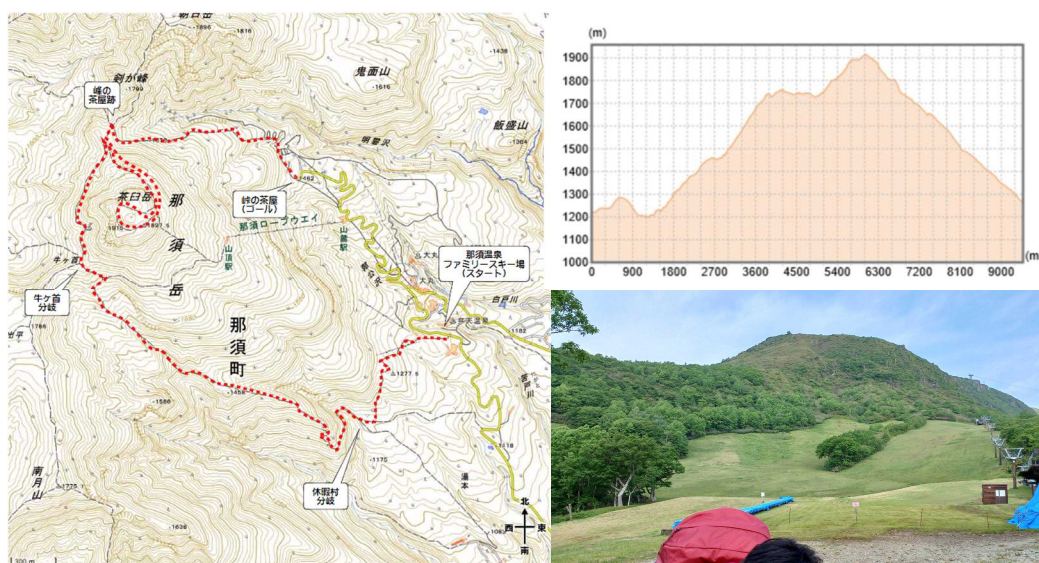
場所 茶臼岳(標高 1915m 那須町)

参加者

天気 18 日 晴れ、19 日 晴れ

[山行への支度]

我々一行は6月18、19日に行われる茶臼岳山行へ向けてかなり前の日から準備をしてきました。計画書を念入りに作ることで、安全かつすばやく登山を行えるようになるためです。そこで、作成する高低図、概念図は我々生徒が毎登山時に作るのですが、今回はそう簡単ではありませんでした。なぜなら、非常にルートが入り乱れていたからです。一般的なコースと逆に位置する森林の中を突き進むというコースを歩くためでした。一般的なコースでは那須ロープウェイから登山をするか峠の茶屋から出発します。地図を見たら、わかる通り、普通ではないのです。



[山行当日]

万全の準備をした我々はその日の朝に那須ファミリースキー場から出発しました。冬季は積雪によって一面雪化粧に包まれるスキー場も上の写真通り緑に広がっていました。我々は奥に見える山のさらに奥を目指すのでした。

[山行開始]

そして、ここから山頂へ向けて写真の左の森林の中を突き進んで行きました。始まってすぐに高低差がある道を進んでいったため、疲労がすぐにたまっていきました。そんな中、岩が水で濡れていて滑りやすくなっていたり、頭上に枝などがいげっていたりしていたため、注意を怠らずに登山をしなければ、いけませんでした。しかし、危険のある所は生徒同士で声をかけあうということをしっかりとひとりひとり意識していたため、大けがを防ぐことができたと思いました。

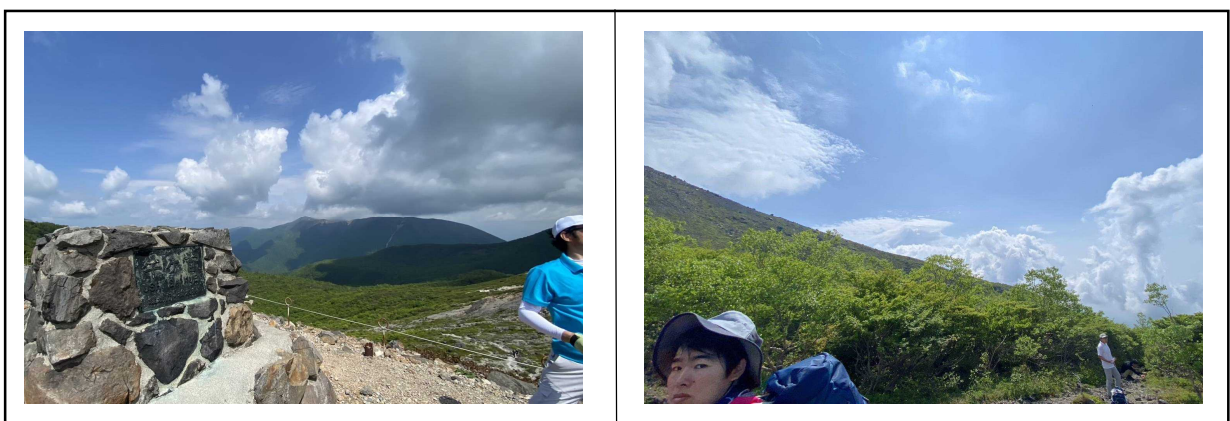


[眺望の感激]

途中、顧問の高梨先生のリサーチの成果による見晴らしのよいスポットで休憩をとりました。そのころ、体力にあまり自身のない一年生はかなり疲労していたため、とても助かりました。計測を終わし、順番に上り、景色を眺めたり、写真を撮ったりしました。そこから、見える壮大な景色はとても広大に広がる山々に圧巻されました。そして、山頂まで頑張ろうという気持ちになりました。

[GAP の変化]

スキー場から出発して約2時間歩き続けると、森林の道から岩がごろごろと転がっている今まで歩いてきた道とは全く異なった道に変化しました。森林の道では、気温はそこまで高くありませんでしたが、湿度が高く、疲れやすい気候になっていましたが、岩ごろ地帯に入ってから、木で頭上を覆われなくなったため、湿度がそこまで高くなく、若干疲れづらくなりました。そして、今まで見えなかった山頂を見ることができるようになり、より一層頑張る気持ちが増しました。



[運命の分岐]

森林地帯を抜けたあたりから、だんだんと登山者とすれ違う回数が増えてきました。休日といったこともあり、それまで登山客が少ないなと思っていましたが、やはり一般的でないルートだったためだと、理解しました。「牛ヶ首」といった大岩のスポットを過ぎ山頂へ向かう分岐の地点で大勢の今までと比べものにならないくらいの登山客がおり、驚きました。分岐地点の地図と写真です。



〔荘厳なる山頂〕

分岐地点から山頂までは、あっという間でした。山頂につくと、神社なのか鳥居のようなものがありました。そして、奥には、祠のようなものもあり、登山客がたくさんおり、写真撮影をしたり、昼食をとっていたりしていました。そして、そこで集合写真を撮影し、登頂をしたという達成感を得ることができ、とてもうれしかったです。左が前半組、右が後半組です。



6/18 前半



6/19 後半

〔優雅なる昼食〕

我々が山頂につき、計測などのすべきことなどを終えてから、昼食の準備を開始しました。昼食には、カップラーメンを調理する人が多く、登頂時の風速は約4m/s とそこそこ風があったため、岩の間や風防を使用して安定を保つようにしてガスバーナーを使用してお湯を沸かしました。一口目は疲れが吹っ飛ばすほどのおいしさで感動しました。食事は約40分で片付けますのでなるべく急いで、食べ終わりました。また、後半組は山頂でたこ焼きを作れるのかと挑戦をしたそうです。しかし、火力が足らず、しっかりと焼くことができなかったそうなので、風をいかに遮るかなどの工夫が必要だと感じました。カップラーメンやたこ焼きの写真です。



[kokoshat]

昼食を摂ったあと、我々はゴール地点である峠の茶屋へ向けて進み始めました。行きと比べてあっという間に半分の地点「kokoshat」地点に到達しました。「kokoshat」とは、2017年の雪崩事故で尊い命が失われてしまった生徒、職員の方々の名前の頭文字をとってつくられた言葉です。我々山岳部にとって大きく受け止めているため、心で哀悼の誠を捧げながら、やまびこが聞こえるほど大きな声で叫びました。

[帰路につく]

その後、ゴール地点である峠の茶屋につき、三年生の引退山行でもあったため、今までの感謝の気持ちを込めて、メッセージカードを送り、記念撮影をしました。わからないことや気を付けるべきところなどたくさんお世話になったので、精一杯感謝を伝えました。今回の山行では、ヒヤリハットで挙げられた「岩で滑った」や「帽子を忘れた」などといった反省が今後注意していく上で、大切になると思います。なので、今回の山行は、大変有意義なものになったと考えました。



18 日 前半

集合写真

19 日 後半

[summary]

We went to Mt.Chausu to climb. There was good weather, and we could finish the climb of Mt,Chausu without injuries. Some members in this team forgot these caps and some of us were likely to slip. So, we will be careful not to make these mistakes again.